

■建設機械の世界需要（2018年2月14日講演より抜粋）

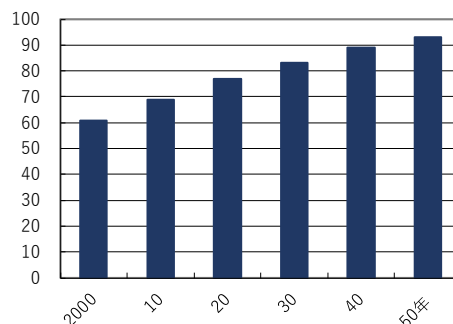
オフ・ハイウェイ・リサーチ（Off-Highway Research）は2017年8月21日、同社のGlobal Volume & Value Serviceにおいて、2017年における世界の建設機械の販売は16%増加すると予想した。8月中に発表したりリースを総合すると、世界の建設機械販売台数は、81万台を超えるとしている。

2017年における主要地域は成長が見込まれるが、主要な要因は中国。油圧ショベルの販売台数は、2017年上半期において、前年同期と比較して2倍以上に増加したこと。

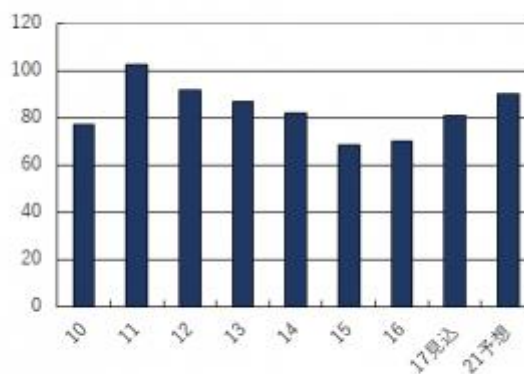
中国の建機市場は、中国政府の5,850億米ドル（4兆元）の景気刺激策を実施した後、2011年にピークを迎えた。しかし、このブームの後、売上げが激減し、市場の需要は2016年にはピーク時の4分の1にまで低下した。回復の最初の兆候は2016年秋ごろから出始め、2017年の上半期に急速に成長した。建機全体の市場は2017年20万台を超え、2014年と同様の水準に戻ると予想している。

他の地域では、インドの市場は依然として強く、2016年の36%増に続き2017年も10%増と予測され、勢いは続いている。政府が集中的なインフラ整備に重点を置いているため、上半期の市場は、新国家財・サービス税（GST）の導入に先立って特に強かった。過去最高だった2011年の5万4,065台の販売を上回ることになる。

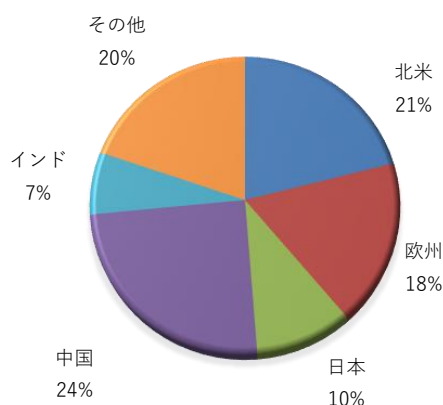
世界人口予測
（単位：億人、国連資料より）



世界の建機需要台数（万台）



地域別台数（推定:17年）



欧州での建設機械販売台数は、2017年は2%増の約14万5,000台に達する見通し。この緩やかな上昇は、2016年はドイツの住宅建設部門からの需要急増で前年比11%増の反動によるもの。

欧州の大部分の国では、フランス、イタリア、英国の主要市場を含む2017年の建機販売台数が増加する見込み。ドイツ市場は2016年に記録的な水準を記録し、急激な修正を見込むと予想されている。欧州最大の建機市場でのこのスライドは、他の分野で見られる多くの利益を相殺する。

ノルディック市場は依然として強く、スウェーデンとノルウェーでは2017年記録的な建機販売が見込まれている。

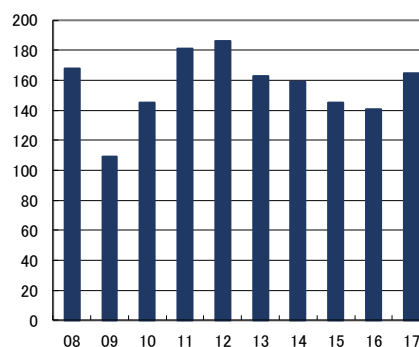
一方、南ヨーロッパの市場は2017年も引き続き回復する見込み。しかし、成長率はパーセンテージで強くなるが、販売台数は、金融危機以前の年に見られた数量に比べて低いまま。

恐らく最も驚くべきことに、2017年英国の機器市場は8%の上昇が見込まれている。数年間の堅調な成長に続いてBrexit国民投票の結果、2016年の売上高は6%減少した。2017年の8%リバウンド予測では、2015年の水準を上回り、住宅建設活動と国のインフラプロジェクトのパイプラインが推進している。

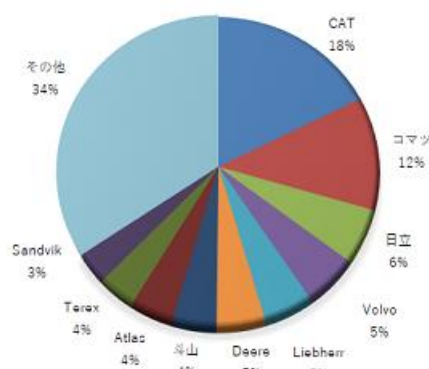
北米市場は8%増の17万台に達する見込み。これは、2016年の大統領選挙によって市場の成長が崩壊する前の2014年と2015年の水準に戻る見込み。同様に、日本では、2016年の需要の低迷に伴い、建機販売が4%増加することが予想される。政府の景気刺激策：アベノミクスと、2011年の地震と津波に続く復興作業に必要な設備の需要に対応して、2016年の訂正には3年間の異常な売上高が先行していた。

オフ・ハイウェイ・リサーチは長期的には、建設機械の世界販売台数が2021年には90万台近くに増加すると予想している。

世界の建機売上(億ドル推定)



世界シェア推定 (2016年)
30社売上：13.3兆円



■建設・鉱山機械30社の売上高

	社名	単位				億円概算
			2015年	2016年	対象	2016年
1	Caterpillar	億ドル	24,119	21,338	建設・鉱山機械	23,471
2	コマツ	億円	16,410	15,765	建設機械・車両	15,765
3	日立建機	億円	7,583	7,639	全社	7,639
4	Volvo CE	百万SEK	51,008	50,731	全社	7,102
5	Liebherr	百万ユーロ	5,624	5,400	建機関連	6,480
6	Deere	百万ドル	4,900	5,718	建設・林業機械	6,289
7	斗山インフラコア	十億ウォン	5,985	5,730	建機部門	5,730
8	Atlas Copco	百万SEK	41,965	40,060	建設・鉱山機械	5,608
9	Terex	百万ドル	5,021	4,443	全社	4,887
10	Sandvik	百万SEK	33,131	31,093	鉱山・建設	4,353
11	JCB	百万ポンド	2,340	2,620	全社	4,061
12	三一重工	百万元	23,366	23,280	全社	3,724
13	OSHKOSH	百万ドル	3,401	3,012	Access装置	3,313
14	中聯重科	百万元	20,753	20,022	全社	3,203
15	Wirtgen group	百万ユーロ	2,250	2,600	連結売上	3,120
16	コベルコ建機	億円	3,362	3,104	統合会社	3,104
17	Joy Global*	百万ドル	3,172	2,370	全社	2,607
18	CNH i	百万ドル	2,542	2,304	建機	2,534
19	Metso	百万ユーロ	2,198	1,956	ミネラルズ部門	2,347
20	クボタ	億円	2,001	2,129	建機部門	2,129
21	徐工工程机械	百万元	16,657	16,891	全社	1,858
22	現代重工業	十億ウォン	1,844	1,852	非連結・建機	1,852
23	住友重機械工業	億円	2,019	1,825	建機部門	1,825
24	タダノ	億円	2,094	1,796	全社	1,796
25	Manitowoc	百万ドル	1,866	1,613	クレーン部門	1,774
26	Wacker Neuson	百万ユーロ	1,375	1,361	全社	1,633
27	PALFINGER	百万ユーロ	1,230	1,357	全社	1,628
28	Hiab	百万ユーロ	928	1,038	全社	1,245
29	広西柳工	百万元	6,655	7,005	全社	1,120
30	竹内製作所	百万元	85,218	83,000	全社	830
					合計	133,027

注1：為替レートは、2016年12月末、2017年3月末、及び2016年1月から2017年3月の実績を勘案
1ドル110円、1ユーロ120円、1元16円、1ウォン0.1円、1SEK14円、1ポンド150円で計算

注2：住友重機械工業は建機関連事業、クボタの売上は建機部門。

注3：徐工工程机械は、徐工集団（売上高771億元：2016年、732億元：2015年）の一部

1. 欧米の需要動向

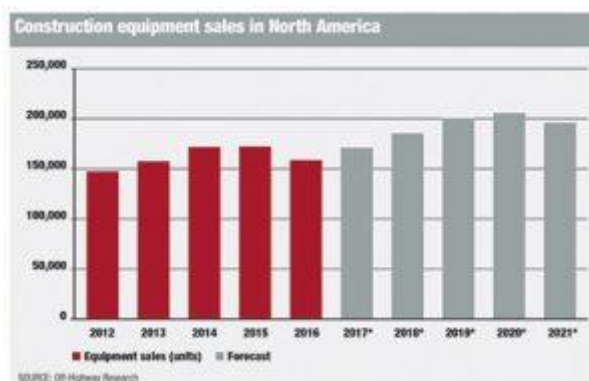
・北米：世界最大かつ最も貴重な地域市場

英 KHL は 2018 年 1 月 10 日、子会社 オフ・ハイウェイ・リサーチ (Off-Highway Research) がまとめた北米の建設機械予測を発表した。それによると、北米の建設機械部門は、2016 年に約 15 万 8,000 台の機械が販売され、小売価値は 260 億ドルを超え、世界最大かつ最も貴重な地域市場だった。2018 年は量的には中国に追い越される可能性が高いが、米国とカナダは機械仕様が高く、一部はエンジン排気量の要求が厳しくなっているため、世界で最も貴重な市場となるとしている。

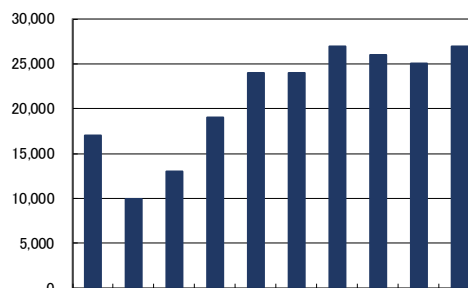
さまざまな種類の機械の人気の中で、北米は他の成熟市場といくつかの特性を共有しているが、独自の機能もいくつかある。

北米では、ヨーロッパや日本と同様に、クローラ式油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダの人気がある。この地域では、ヨーロッパのテレスコピックハンドラーとの親和性も共有されている。これらの 4 つの機械カテゴリーは、北米最大の量産市場の一部を表している。

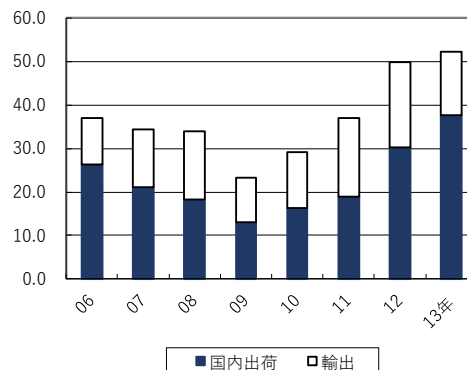
しかし、類似点が終わり始める。北米市場のユニークな特徴の 1 つは、スキッド・ステア・ローダとの love affair (恋愛) である。昨年は、このタイプの機械の世界販売台数の 75% 以上を占め、コンパクト・トラック・ローダの広大な市場でもある。



北米の油圧ショベル需要台数(出所:業界)



米国の国内出荷と輸出
(単位: 10億ドル)



しかし、地域市場の最も顕著な特徴の1つは、世界の発展した地域であるにもかかわらず、大型の土木建設機械は、依然としてかなりの数で販売されている。これは、世界最大のドーザおよびグレーダ市場であり、中国やインフラプロジェクトのために大量に販売されることが予想されるインドなどの主要な新興市場よりも大量にある。北米は世界最大のアーティキュレート型ダンプトラック市場でもあるが、新興市場との比較はここでは不可能である。

北米市場の別の特徴は、バックホーローダが合理的な数量で売れているのに対して、その人気は過去10年間ヨーロッパで減少しているということ。

この主な理由は、北アメリカの斑さ。つまり、日本とヨーロッパの多くの場合と同様に、地域はまだ上向きではなく外向きに立っている。これは、居住用および非居住用の建設では、処女地での high element of earthmoving（高い要素の土木建設機械）が依然として多いことを意味する。一方、ヨーロッパや日本では、high-rise or brownfield activity（高層建築物または利用されなくなった設備）が多い。

■成長予測は20万台以上、350億ドル

オフ・ハイウェイ・リサーチ（Off-Highway Research）の北米の予測では、市場の小売価値を350億ドル以上とすることで、2019年と2020年までに販売は20万台以上に増加すると予測している。

これは、経済が合理的なペースで成長し続けることを前提にしており、建設成績を良好な水準に維持している。北米の鉱業、ガス、石油部門への機器販売を刺激する世界的な原材料価格の回復を前提としている。

計り知れないより難しい要因は、トランプ大統領が米国のインフラ投資に1兆ドルの資金を投入する約束だということ。これが設備市場に与える影響を評価することで、この合計が達成可能かどうか、追加される時期、本当に「余分な」支出になるかどうかという疑問が生じる。

これを見る1つの方法は、1兆ドルが現在のレベルでの米国の建設生産量の約1年間に相当するということ。したがって、これが本物の余分な投資として実現した場合、支出の寿命にわたって年間150,000台の建設機械の販売を促進する可能性がある。

これはおそらく最も楽観的なシナリオだろうが、インフラへの余分な投資、あるいは資金の安定性と予測可能性の向上だけで、建設機械販売を刺激するはずとしている。

・欧州の建設機械

～「Annual Economic Report 2017」（2017年3月発表）より

■2016年の業績

2015年と同様に、欧州市場は世界のほとんどの地域を上回り、中国とインドに次ぐ第3位に成長した。CECEの経済専門家、セバスチャン・ポップ氏は、「2016年の2桁台の売上高の伸びは確かに欧州では肯定的なニュースだったが、大陸間で大きな格差が残っている」と説明した。

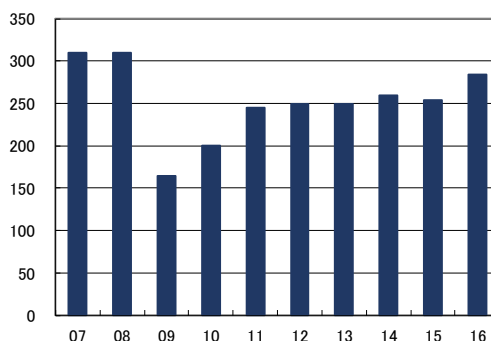
量的に見ると、フランス、ドイツ、イタリアで最も高い売上増加が記録した。「特にドイツ市場、北欧と西ヨーロッパは歴史的な記録レベルに近い」とポップ氏は述べた。一方、南欧や中央・東欧諸国の復興は依然として不十分である」と述べた。肯定的な見方は、長年の極端な悪化を受けてロシア市場が復活したことである。

ヨーロッパの土木建設機械の売上高は2016年に12%増加した。建築用建設機械（タワークレーンおよびコンクリート機械）は21%のさらに高い成長を記録した。「すべての建設機械サブセクターが上昇から恩恵を受けたことを確認することは奨励されている」とPopp氏はコメントしている。「これは、住宅建設と非住宅建設、さらには土木工事の両方で成長が見られる顧客業界の状況に対応している。

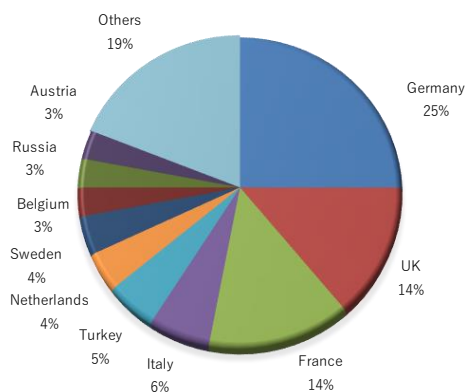
■2017年の見通し

CECEのビジネスバロメーター指数は、2016年の夏にBrexit投票に続いて一時的な低水準に達したが、それ以来、2017年2月にはほぼ6年間で最高の指標価値を生み出した。興味深いことに、2017年に調査された製造業者によって肯定的であると見られている。

欧州の建機販売(億ユーロ)



欧州の建機販売高(2016年: CECE)

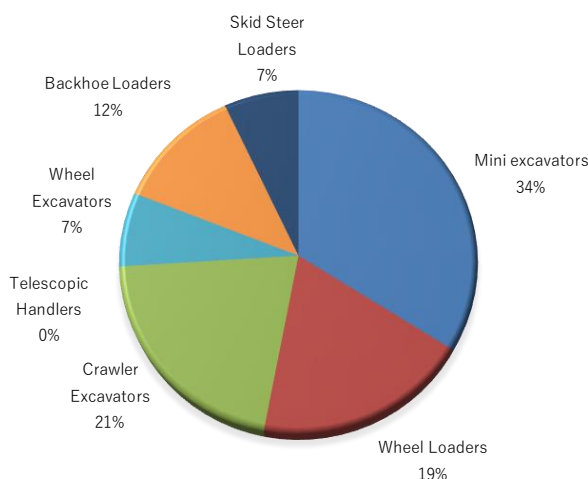


新政権によって推進されたインフラ投資によって促進され、米国市場は上昇を見込むであろう。

中国とインドは、昨年の上昇傾向を継続すると予想されている。欧州の大半のメーカーは、2017年に中東市場が回復すると予想している。一方、ラテンアメリカはまだ2016年の低水準から回復するとは予想されていない。欧州市場では、CECEバロメーターで調査されたメーカーは、トルコ市場を除いて概ね肯定的なシナリオを予想しています。特に、スカンジナビア、フランス、ドイツに集中したいと考えている。

楽観主義はサブセクター間でも同様に強く：ビジネス状況の改善を期待している製造業者のシェアは、土木工事、道路工事、コンクリート機器製造者にとってはほぼ3分の1。コンポーネントサプライヤだけが同様の方法でアップスイングを信頼しない。平均的な評価が肯定的であるうちに、63%が近い将来に不変のビジネスを期待している。

欧州の土工機械販売台数（2010年、CECE）



緩やかな成長を遂げているヨーロッパの建設業種、一般的にはプラスの業種感情、市場回復の段階が国ごとに異なるため、2017年にはヨーロッパで最も現実的なシナリオと思われる。製造業者は3年連続の減少の後、成長に戻ると予想される世界市場の恩恵を受けることができるはずだ。

■CECE：ドイツ、英国、フランス、イタリア、スペイン、チェコ、スウェーデン、フィンランド、オランダ、ベルギー、オーストリア、ロシア、トルコの13の欧州諸国の全国貿易協会を通じて、1,000社以上の建設機械メーカーの利益を代表している。CECE製造業者は直接的に約15万人を雇用し、間接的には2～3倍の人員を雇用している。最高の生産性と環境への影響を最小限に抑えた設備を提供するために継続的に投資し、革新している。

2016年における建設機械の販売台数は、前年比12%増の145,000台。

・ドイツの建設機械と建材機械

■2年連続好調で2017年は5%増の146億ユーロに

VDMA（ドイツ機械工業連盟）によると、建設機械と建築材料機械産業は2017年9月までのところ良好な成績をあげている。

「これまで以上に多くの混乱がありましたが、急速に続くすべての課題にこれまで対応してきました。」――2017年10月26日、デュッセルドルフで開催されたVDMAの総会でVDMA建設機械および建材機械協会のJohann Sailer（ヨハン・セイラー）会長は述べた。

以前の危機の時とは異なり、恐怖の心理的勢いは、近年のメーカーの日常業務に殆どまたはまったく影響を与えなかった。しかし、石油・ガス・原材料市場の低迷とそれに伴う新興市場における需要の減少は、業界に影響を与えている。

市場は徐々に改善しているが、遅いサイクルの建築材料プラントは依然としてその影響がある。

■5%増の販売予測が確認された

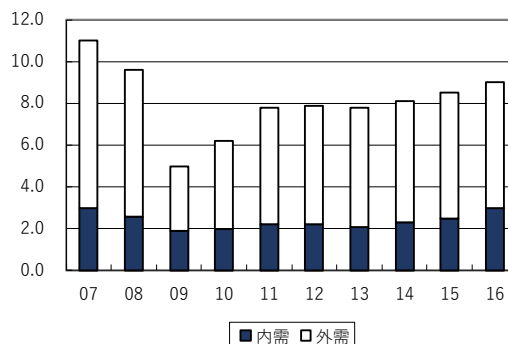
現在の見通しによれば、建設機械・建築材料機械セクター全体の販売は少なくとも5%の伸びで終わる。これは約146億ユーロ（約1兆9,300億円、1ユーロ：約132円）に相当する。これにより、Sailer氏は彼が今年の初めに作った予測を確認することができた。2016年に受注が急増した後、状況は2017年も同様に肯定的である。

現在までに受注した建設機械の受注高は、前年同期と比較して約20%増加している。土木機械は24%増、道路建設機械は16%増、構造工学機械（structural engineering machinery）は18%増加している。今年のこの肯定的な発展は驚くべきことだった。

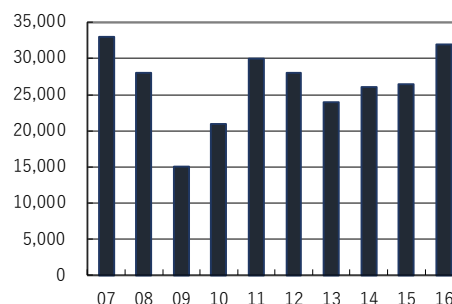
■ドイツ市場は依然として強く、急速に拡大

ドイツの建設機械市場は急速に拡大している。ドイツの建設機械の販売は、現在、過去最高の2007年と同じ高水準である。2016年の20%の伸びに続き、2017年はこのコースが

ドイツの建設機械販売高（10億ユーロ）



ドイツの建設機械販売台数



平準化される見通しだ。「我々は、市場が変わるところにいる。しかし、我々は別の危機を予想していない」と Sailer 氏は語った。

同氏は、2007 年とは枠組みの条件が異なっていると主張している。顧客は多くの仕事をしており、園芸や造園業が着実に増加しているなど、新しい顧客セグメントを模索している。ドイツのレンタル市場は、成長を続けている。さらに、最近ではマシンを他の市場に容易に出荷することができる。

■世界市場は建設機械を必要とする

欧州市場は現在安定している。近年問題となっていたイタリア、スペイン、東欧などの国々は、平均以上の水準で発展している。ヨーロッパの市場はこのように平準化を続けている。

世界的には、ブラジル、中近東を除くすべての市場が成長しているが、レートは異なる。ロシア、インド、中国は、変動幅上昇の一例。比較的短い期間（現在は一部の製品グループでは 50% を超える）で中国市場が再び繁栄している。自国の問題を抱えているブラジルはスケールの反対側にある。米国市場は正常で、現在は約 5% 上昇している。「しかし、Conexpo の間にまだ触診できるトランプの陶醉は消えてしまった」と Sailer 氏は語った。

・英国の建設機械

■1～9 月は 6% 増、ショベルは 13% 増

英国建設機械協会（CEA）は 11 月 6 日、2017 年 1～9 月における建設機械および土木機械の販売台数は前年同期比 6% 増になったと発表した。

第 3 四半期（7～9 月）の販売台数は、前年同期比 3% 増となった。これは、第 1 四半期の販売台数が 9% 増加した後の年末に向けた季節調整パターンだった。CEA は、ここ数年、第 2 四半期に販売台数がピークに達し、第 4 四半期には底を打とうとしている。

2017 年 1～9 月の機械・機器販売の伸びは、クローラ式油圧ショベルの販売台数が 2016 年同期に比べて 13% 以上増加したことに起因している。これには、英国で最も人気のある製品であるミニショベルの販売が含まれ、今年は住宅市場が好調に推移している。

機械・機器サプライチェーン内の全体的な信頼は、特にレンタル部門内では引き続き肯定的だった。たとえば、Q3 European Rental Association の調査では、英国の 60% の過半数が、今後 12 カ月で市場状況が「より良い」（「同じ」または「悪い」と比較して）良いと予想している。

これは、レンタル部門が市場供給の 60% 以上を占めると推定される英国の機械・機器市場にとって重要。全体として、英国市場における機械・機器販売は、2014 年以来比較的強

く、過去3年間の販売台数は2008年の市場崩壊以来の最高水準で推移している。

英国の建設機械は中小型の油圧ショベルが半分を占め、販売先は60%がレンタル向け。なお、英国の建設機械のデータ交換は、専門データ処理会社のSystematics International Ltd.によって運営されている。

■英国の建設機械、1～9月の輸出は21%増、輸入は内需の増加を反映して12%増

英国建設機械工業会（The Construction Equipment Association : CEA）が11月27日に発表した2017年最初の9カ月（1～9月）の輸出入統計によると、英国の建設機械輸出は、前年同期比21%増、輸入は国内需要増を反映して同12%増となった。

英国の建設機械輸出は、2017年第3四半期（7～9月）においてさらに穏やかな増加を示し、4四半期連続の成長を示した。第3四半期の輸出は、第2四半期（4～6月）に比べて1.3%増の7億2,300万ポンドで、2015年第2四半期以来2年超の四半期最高水準だった。また、1～9月の輸出は前年同期比21%増だった。

建設機械輸出の増加は、主要海外市場の需要の改善とBrexit国民投票に続く2016年中期以降の英ポンド安の利益の両方に起因する可能性がある。

米国向け輸出は、英国の輸出仕向国トップを維持し、総輸出額の23%を占めた。EU28の国への輸出は、44%（2016年：41%）を占めた。

建設機械の輸入は過去2年間と同じ季節パターン、4～6月期の「ピーク」、10～12月の「ボトミング」に続いて、第3四半期は減少した。しかし、英ポンド値で言えば、第3四半期の輸入は前年同期比6%増の3億4,200万ポンドだった。また、1～9月の輸入額は前年同期比12%増の11億2,800万ポンドだった。



英国の建設機械データ交換*によれば、1～9月の建設機械輸入の増加は、英国市場における建設機械販売の増加と一致している*。（1～9月の建設機械販売は前年同期比6%増となっている）

(* 英国の建設機械のデータ交換は、専門のデータ処理会社である Systematics International Ltd.が運営している。CEA は Systematics との提携により、このスキームの高水準データにアクセスできる)

日本は、2017 年の輸入の世界最大規模の輸入源であり、1~9 月の建設機械輸入総額の 20%を占めている。

全体として、英国は重量と価格の両面で測定された建設機械の純輸出国である。第 3 四半期 (7~9 月) の貿易黒字は大幅に増加し、2014 年以来四半期最高の 3 億 8,100 万ポンドとなった。1~9 月の輸出余剰は、前年同期比 33%増となった。

・フランスの建設機械

■油圧ショベル、2017 年は 23%増の 1 万 5,700 台予想

フランスの CISMA(建設・インフラ・鉄鋼・ハンドリング機器製造協会)の 2017 年 9 月 5 日発表によると、フランスにおける 1~7 月のクローラ式油圧ショベルの販売台数は、前年同期比 23%増だった。2016 年、フランスでは 1 万 2,800 台のクローラ式油圧ショベルが販売されたが、2017 年は前年比 23%増の 1 万 5,700 台に達すると予想されている。



同協会の調査は依然として非常に好調。建物の建設が伸びており、土木工事が改善している。フランス市場における供給の 60%以上を占めると推定されるレンタル部門でのクローラ式油圧ショベルは 31%増加した。

1~7 月、ミニショベルは同 25%増の 7,800 台近くになった。2016 年、ミニショベルは 33%増加しており、ミニショベルは本当に人気がある。また、6~12 トンのクローラ式油圧ショベルの販売も好調で、期間中 19%増加した。レンタル向けの販売は、この増加のかなりの部分を説明している。

クローラ式油圧ショベルの販売は 12 カ月以上増加、2017 年 1～7 月で 11%増加している。21 トンから 24 トンのセグメント（全体の 28%を占める）、そして最も重要なのは、24～28 トン（全体の 18%）のセグメントで、52%増であった。

CISMA は、FIM(機械工学産業連盟)の専門組織。現在、CISMA はフランスの約 3 万 1,000 人を雇用する 200 社の会員で構成されている。生産の 58%を輸出し、78 億 6,000 万ユーロ（約 1 兆円：130 円計算）の収益を生み出している。

■小型建機の構成比が 78%まで着実に成長

フランス CISMA（建設・インフラ・鉄鋼・ハンドリング機器製造協会）の 2017 年 11 月 15 日発表によると、フランスでは、ここ数年の間に小型建機（compact equipment）のシェアが着実に増加しており、2010 年には土木建設機械（earthmoving equipment）全体うち 74%だった小型建設機械の比率が、2017 年は 78%を占めているようだ。

重機（heavy：中・大型機）と小型建機がともに成長している場合、一般的な傾向として、小型建機は重機よりも強く、9 月末（1～9 月）には前年同期比でそれぞれ 22%増と 15%増になった。これは特に小型ショベル（25%増）、コンパクトホイールローダ（26%増）、コンパクトホイールショベル（43%増）に適用される。

ただし、例外もある。スキッド・ステア・ローダの販売は 1%減少、数年間構造的に減少しているバックホーローダの販売は、昨年の 3%減から 12%減となった。最後に、レンタル業者への販売はダイナミックに変化しており、2016 年以来、土木建設機械が回復している。小型建機は、この傾向から最も利益を受けている。

さらに、都市化の発展に伴い、コンパクトな設備セグメントの位置付けが良好である。これらの機械は、都市開発および小規模建設プロジェクトで一般的に使用されている。このカテゴリーの機械は、高い生産性と現場での footprint（足跡、トレース）を提供する。

・イタリアの建設機械

■1～9 月は 13%増の 7,964 台

イタリア建設機械貿易協会（Unacea）が 10 月 24 日に発表した 2017 年 1～9 月の建設機械販売台数は、前年同期比 13%増の 7,964 台となった。アースムービング（土木機械）は同 13%増の 7,551 台、道路機械は同 11%増の 318 台、テレハンドラーは同 20%増の

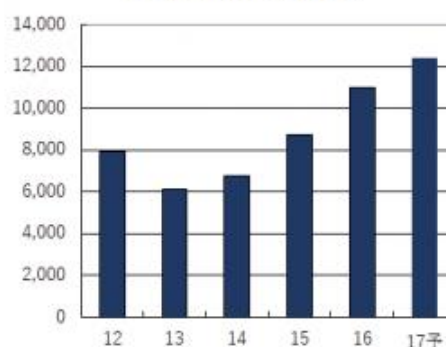
95 台だった。輸出水準は全国的に高く、生産の 75%を輸出し、ピークは 95%まで上昇した。

イタリアの建設機械業界は、将来については良好な見通しだが、新世代および都市排ガスの分野における業界の要求は未解決のままとしている。

Unacea 会長の Paolo Venturi（パオロ・ベンチュリ）氏によると、「国家産業と市場は引き続き回復の兆しを見せていますが、まだいくつかの機会を逃しています。長い間、私たちは市の行政に、時代遅れの建設機械に起因する都市中心部での排出問題を認めるよう求めてきました。2017 年に導入されたこの問題に関する措置は、車両交通に加えて農業や家庭内の温暖化を考慮すると、正しい方向に向いていると思われる。しかし、時代遅れのマシンは、むしろ大気の質に大きく貢献することができます」

「国家産業と市場は引き続き回復の兆しを見せており、まだ多くの機会を逃しています。長い間、私たちは市の行政に、時代遅れの建設機械に起因する都市中心部での排出問題を認めるよう求めてきました。2017 年に導入されたこの問題に関する措置は、車両交通に加えて農業や家庭内の温暖化を考慮すると、正しい方向に向いていると思われる。しかし、時代遅れのマシンは、むしろ大気の質に大きく貢献することができます」と Paole Venturi、Unacea の社長は述べている。

イタリアの建機販売台数

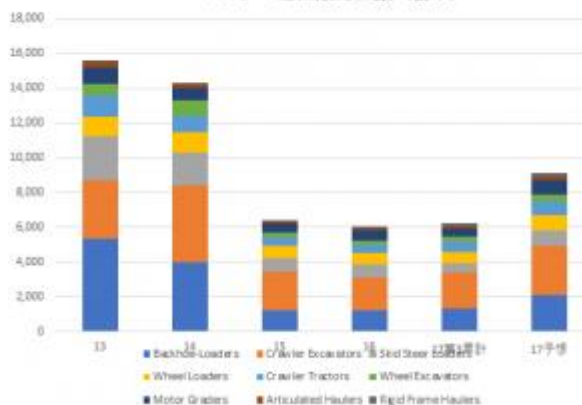


・ロシアの建設機械

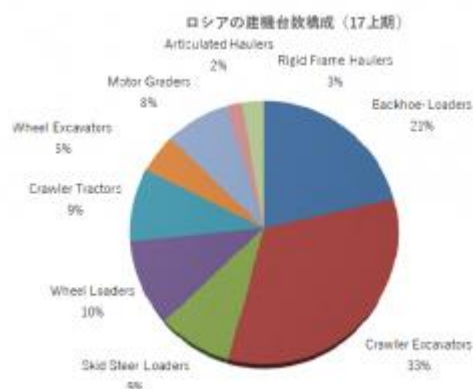
■1～9 月は 51%増の 6,251 台

欧州ビジネス協会（Association of European Businesses : AEB）の建設機械委員会（The Construction Equipment Committee : CEC）は 11 月 13 日、2017 年第 3 四半期（7～9 月）と第 3 四半期累計（1～9 月）の建設機械販売実績をまとめた。

ロシアの建機販売台数（新車）



それによると、7～9月の建設機械新車販売台数は、前年同期比60%増の2,425台、1～9月は同51%増の6,251台となった。うち主力機種のお圧シヨベルの7～9月は前年同期比55%増の795台（16年同期512台）、1～9月は同46%増の2,045台となった。その他の機種も第3四半期、1～9月とも増加した。



Andrey Komov（アンドレイ・コモフ）AEB・CEC 委員長（Volvo CE ロシア・マネージングディレクター）は次のように述べている。

「第3四半期の市場回復のスピードはかなり予測可能で、過去2四半期とほぼ同じでした。市場は、内部的または外部的なショックのない『通常通りのビジネス』モードで働いていました。当時のルーブルのボラティリティ（価格変動の度合い）も需要回復に大きな影響を及ぼしませんでした。市場が完全に回復するまで消費者の肩に余分なりサイクルやその他の手数料をかけることなく、ビジネス条件を安定させることは非常に重要です。さもなければ回復は遅くなり、最初の市場レベルに到達するにはさらに3～5年かかるでしょう。」

CEC は、2008年2月にAEBによって作られた。現在、CECはロシア市場の80%の道路建設会社および特殊機械会社の利益を代表している。建設機械小売上データは、以下の機械製造業者と輸入業者で構成されている。

3. 中国・アジアの需要動向

・中国の建設機械

■油圧ショベルは、更新需要と一帯一路で好環境続く

中国における2017年（1～12月）の油圧ショベル販売台数は、前年比100%増の14,030台となった。うち国内は同108%増の130,559台、輸出・他は32%増の9,744台だった。

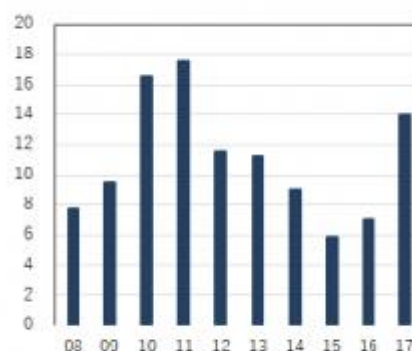
クラス別（国内）実績は、小型79,307台、中型32,005台、大型機19,247台だった。

中国の油圧ショベル需要は、共産党大会後も高水準のインフラ投資が続くとの見方が増えている。習近平国家主席は、過去5年間の実績をアピールするためにも公共投資を中心とする景気拡大策を継続するとみられており、政府主導の公共投資は引き続き盛り上がり予想されている。

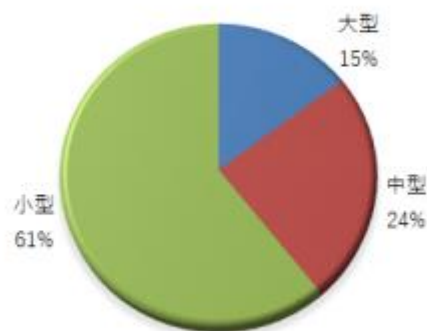
目玉となる「一帯一路」政策は、建設機械産業の発展に多大な貢献をもたらしている。この路線に沿って1～9月の中国からの建設機械輸出は、前年同期比12%増の61億7,000万ドルとなり、輸出比率は43%と高まっている。また、国務院開発研究センターの見積もりによると、今後5年間で、「一帯一路」に沿ったインフラに対する投資需要は、10兆6,000億ドルに達する見通しと報じられている。

そのほか、中国の油圧ショベル業界にとって大きいのが更新需要。一般に中国における油圧ショベルの更新周期はおよそ8～10年。過去のピークである2008～2011年の更新需要が一定程度見込めること。

中国ショベル販売（万台、輸出含む）



クラス別（17年1-12月）

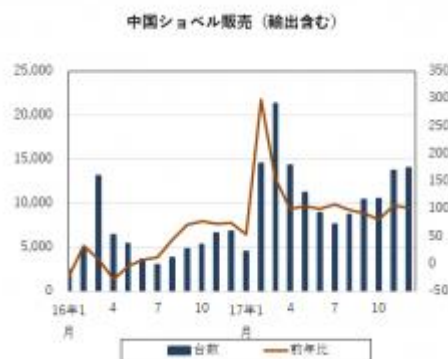


■これまでの経緯（2017 年末）

中国の油圧ショベルは、中国政府のサポートと更新需要により、1年半以上にわたり前年同月を上回っている。政府のインフラ投資、更新需要、昨年が低水準だったこと、世界的な建機需要の回復による輸出増一一。これら複合的にプラス要因が重なり、高い回復を示している。

国家発展改革委員会（発改委）と交通省は、鉄道、高速道路、水路、空港、都市鉄道の303プロジェクトを2016年から2018年までの間に推進することに焦点を当てると明言しており、「交通インフラの主要インフラ整備のための3年間の行動計画」を共同で発表している。約4.7兆元の投資、そのうち2018年は1.3兆元に達しているといわれている。

建設機械業界を取り巻く環境は、当面、国内外の経済情勢、環境保護政策、在庫・設備更新、鉱業投資、不動産建設、インフラ建設・都市化など明るいと言われているが、不動産投資の成長と環境保護政策の低下は、業界に不確実性をもたらす面もある。これらを総合的にみると、2018～2020年の油圧ショベルの販売台数は12～16万台で、市場全体として安定するとの見方も出ている。



販売シェア推定（2017年通期）



・インドの建設機械

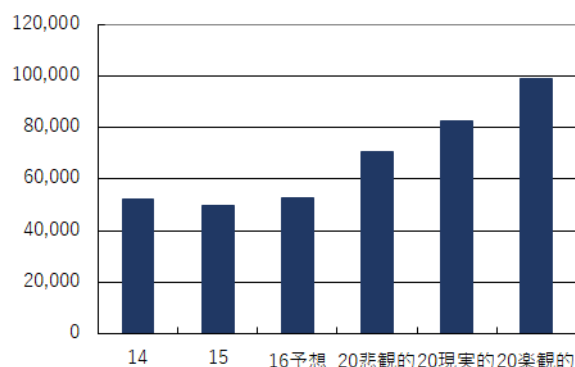
■2017年は7万3,000台超、2011年を抜き新しい高値へ

インドの建設機械の販売台数は今年（2017年）10%増加し、2016年に見られる36%増の勢いを続けている。これは、2011年の7万2,492台の販売台数を上回ったことになる。建設機械・車両の調査会社、英オフ・ハイウェイ・リサーチ（Off-Highway Research）は2017年8月7日、政府がより集中的なインフラ整備に重点を置いているため、2017年の販売台数が7万3,000台を超えると予想するレポートを発表した。上半期の建設機械市場は、新国家財・サービス税（GST）の導入に先立って特に強かったという。

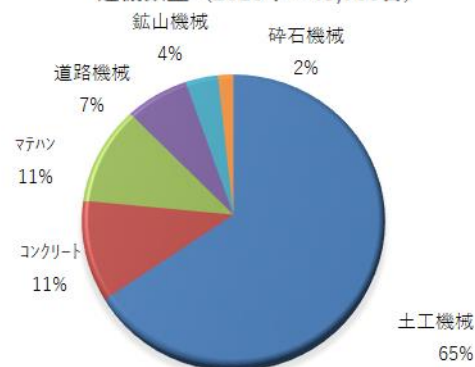
オフ・ハイウェイ・リサーチでは、今後、インドの建設機械市場は継続的な成長を期待しているが、これは必然的に総選挙のために2019年に緩やかになるだろう。しかしその後、2021年には販売台数が9万台を突破する見通しとしている。

「バックホローダ、クローラ式油圧ショベル、モービルクレーン、モバイルコンプレッサー、圧縮装置、ホイールローダの6つの最も人気のある製品が市場を引き続き支配しているが、ほぼすべての種類の装置が成長を遂げるでしょう。これらはともに、2021年に市場の93%を占めるだろう」と、オフ・ハイウェイ・リサーチのMarket Reportは述べている。

インドの建設機械（台数）



建機数量（2015年：49,700台）



■2020年まで8割近い伸び、台数は7～9万台の見通し

インドの建設機械市場は、現地のインフラ計画が原動力となり今後数年間成長が続く見通しだと期待されている。主要建設機械の需要台数（約25万台）のうち、未だ4%程度にしか過ぎないが、直近1年の好調ぶりは顕著で、将来予測も明るい。（参考：ATカーニーレポート）

インドの建設機械市場は2016年に前年比20%増の5万8,465台、2020年には7万3,595台が見込まれ、過去最大の2011年(6万7,898台)を上回り史上最大となる。

これは、モディ政権によるインド国内のインフラ投資の活発化が背景で、今後4年間成長が続く見通し。うち、長期的に見て最も力強く伸びるのはクローラ式油圧ショベルで、2015年から2020年の5年間で2万2,000台に倍増すると見込まれている。

また、ドイツ機械工業連合会(VDMA)によると、インド建機市場は今後も成長が見込めるアジア域内で唯一の市場で、インフラ開発がこの成長の原動力となっているとしている。インド政府および国際開発銀行は、鉄道だけでなく新規の道路、橋梁、港湾、空港およびエネルギーの開発に数十億ユーロの予算をつけている。ドイツ貿易投資庁(GTAI)によると、2016・17年のインドの高速道路建設は、前年の6,000kmから1万5,000kmまで拡張される見通しとしている。

いずれにしても、総人口（現状約13億人で世界2位）は2030年頃に中国を抜き、人口増加は2050年頃まで継続する見込みのインド。現状GDPは10年前の中国と同規模、民主主義のため成長スピードは遅いのも特長。現状32%とされる都市化率が高まり、インフラ投資が拡大すると予想され、電力や鉄鋼産業に必要な、石炭、石灰石、鉄鉱石など主要鉱物の生産量も世界有数国である点が魅力となっている。

